

現代モンゴルにおける都市＝草原関係 の変容とウェルビーイング

概要

モンゴル国では、20世紀の半ば以降、人口の増加、工業化と都市への定住化が急速に進展し、現在では、全人口のおよそ半数（約163万人）が、首都ウランバートルに暮らしている。本ワークショップでは、現代モンゴルにおける人口動態（人口増加、都市部への人口集中および草原部の過疎化）が、草原（khodoo）と都市（khot）に暮らす人びとのウェルビーイング（生活の安定や幸福）に及ぼした影響について、地方から都市への移住、都市生活と草原のつながり、都市近郊の酪農生産、地方の新型コロナウイルス感染症への対応とポストコロナの状況という4つの視角から検討を行い、都市と草原の双方において、幸福実現に向けた課題と可能性を明らかにする。



対面とオンラインのハイブリッド方式
会場：神戸大学鶴甲第一キャンパスE棟学術
交流ルーム1（E410教室）
事前参加登録不要
使用言語：日本語（一部英語）

プログラム

第1部 基調講演（13:40～14:20）

Troy Sternberg University of Oxford

Pastoral diaspora:
herders, migrants or explorers?

第2部 個別報告（14:20～15:40）

松宮邑子 埼玉大学

都市生活における“幸福”の体現——草原と
の関係にみる都市民の住まう実践

富田敬大 神戸大学

都市近郊の零細酪農生産の特徴と持続可能性

星野仏方 酪農学園大学

新型コロナウイルス・パンデミックの中のモン
ゴルの遊牧——モンゴル国全国気象ネットワ
ークを用いた調査から見えたもの

上村明 東京外国語大学

新型コロナウイルス・パンデミックはモンゴル国
の移動牧畜を変えたか

第3部 総合討論（15:50～16:30）

コメント1 寺尾萌 鹿児島大学

コメント2 森永由紀 明治大学

まとめ・総合討論 尾崎孝宏 鹿児島大学

オンライン(ZOOM)参加情報
ミーティングID: 914 1381 8741
パスコード: 344885
QRコードにZOOM URLあり

